

(4) 造園の魅力が引き出された美しい空間の創出

ア 植栽を効果的に使った空間を創出する

(ア)シンボル

敷地のコーナーに植栽されたシンボルツリーは、空間を引き締めるとともに周辺のランドマークにもなっている。

特徴ある樹木を数本植えることでシンボリックな空間を演出している。



(イ)アイストップ

広場状空地の突き当たりに植栽された高木群は、アイストップとして空間を引きしめるとともに、背後のビルの角を消すことで空間に柔らかさを与えている。

アイストップとなる独立樹も、自らの敷地に設置された看板で、見る方向によっては価値が下がってしまう。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(ウ) 抜け

歩道状空地の両側に列植された高木は、潤いをもって歩行者の視線を抜く効果がある。



歩道状空地に配置された多様な植栽は見る方向によって、変化に富んだ潤いをもって歩行者の視線を抜く効果がある。



(エ) 一団の塊

周囲の見通しを確保しながら、樹木を階層的に塊として植栽することで、緑量感を増す効果が期待できる。



低木主体の植栽で階層的になっておらず、緑量感が乏しい空間となっている。高木を配置することで、緑量感を増やすことができる。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(オ)寄せ

歩行者動線に配慮した上で、建物等の構造物に寄せて植栽することは、空間の有効活用や緑量感を増す効果がある。



(カ)厚み

歩道状空地の植栽、建物側に寄せられた植込み、広場状空地の緑陰樹の連担で緑の厚みが増している。



(キ)エッジ

歩道状空地の植栽として基盤を立ち上げず、かつ、エッジを曲線にすることで、和らいだ空間が造られる。



壁による植栽帯の立ち上げは、歩行者へ圧迫感を与える場合がある。(地形上、やむを得ない場合は除く。)



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例